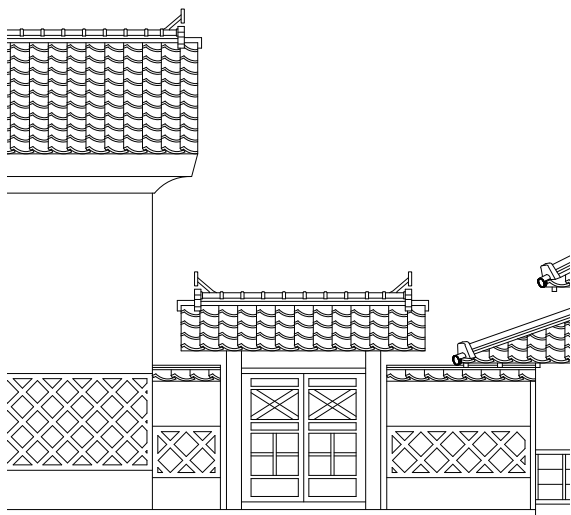
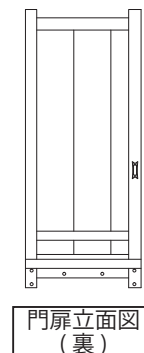
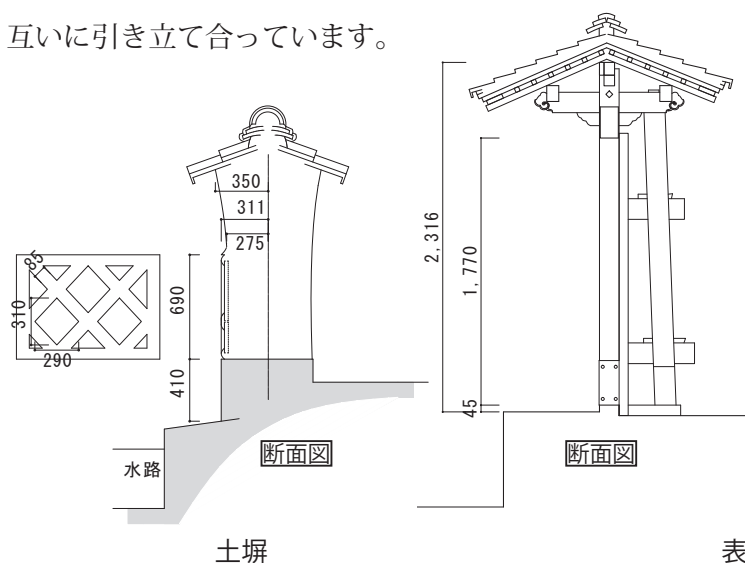




表門・土塀

主屋と土蔵に間に位置する表門は腕木門とよばれるもので、裏に控柱を建てています。2枚の門扉をはめ、門扉は通用門と同様に上部は斜めの細い棧を4本交差させる意匠がみられます。棟の先端は鳥伏間を置くなどのしつらえを行っており、これら意匠は本町通りの財間家住宅の本門（P.17）と共通します。

土塀は足もとから石段、ナマコ壁、白漆喰塗、石州瓦葺きの屋根とし、表門の両脇に配されることで、互いに引き立て合っています。



表門 0 200 600 1000 (mm)



表門の腕木

柱から水平に伸びる腕木の先端は線形とされ、また絵様で飾られている様子が見られます。



表門、棟の先端

巴瓦、鬼瓦、鳥伏間：表門や裏門の小さな屋根には薄い鬼瓦をよく使用しています。



門扉の取手

金属製で、繊細な加工がなされています。

本町通りの特徴：例



本町通りでは敷地の間口いっぱいに家屋を並べ、主屋は平入とするのが一般的です。ところどころに土蔵が建つ様子や通し庇の軒先が敷地から張り出し道路上（かつて水路であった暗渠の上）にかかる様子も特徴のひとつです。商人町の通りとして店舗兼住宅が多くを占め、殿町を除く他の通りに比べ規模の大きい町家が並びます。



虫籠（むしこ）窓

背の低い中二階によく空けられる窓で、窓にはまる格子に漆喰を塗るもの、鉄格子をはめるものもあります。



鉄格子の虫籠窓

格子戸・格子窓

1階入口を除く全面に格子をはめる例がみられます。格子子（格子の縦材）の幅や間隔は様々です。



全面ガラス窓の中二階

木製のシンプルなガラス窓です。

全面ガラス戸の一階

全面をガラス戸で開放的な意匠を持ちます。



漆喰の塗籠 防災のため家屋の側面側には漆喰を軒の部材が隠れるように塗っています。

全面格子の二階

二階の窓全面に格子をはめています。

格子戸・格子窓

本町通りの家屋：例

江戸
～
明治初期

店舗兼住宅



蔵・倉庫



明治中
～
後期

「財間家」⇒ P.16



「フジヤ」⇒ P.18



「俵種苗店」⇒ P.18



「財間家」⇒ P.16



大正
～
昭和期

「古橋酒造」⇒ P.20



「古橋酒造」⇒ P.20



殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

江戸期
～
明治初期

明治中期
～
後期

大正期
～
昭和初期

専用住宅

店舗兼住宅

蔵・倉庫

02 財間家住宅（明治 32 年、本町通り） 主屋、本門、マエノクラ

財間家住宅は明治 32 年上棟（棟札より）であり、本町通りと代官町通りの交差点北東角に位置します。

津和野町内でも特に規模の大きい町家のひとつであり、正面は向かって右から主屋・本門・マエノクラと並んでいます。

主屋

正面（本町通り側）外観の 1 階は向かって右から、幅広の平格子、入口と並び、入口より左手は半間ほど正面にせり出しており、簾子下見板張りの腰板に上部は木製ガラス窓、親子格子の出格子の順に並んでいます。

1・2 階の間には通し庇を伸ばし、2 階は一面に親子格子をはめ、両脇に漆喰で塗り込められた戸袋が付き、格子と戸袋の間にはうだつをつけています。

うだつから側面側の外壁は垂木型が出ないほど漆喰で塗り込めますが、中央部には塗られていません。

正面に隙間の広い犬矢来を置いてあるのも特徴のひとつです。



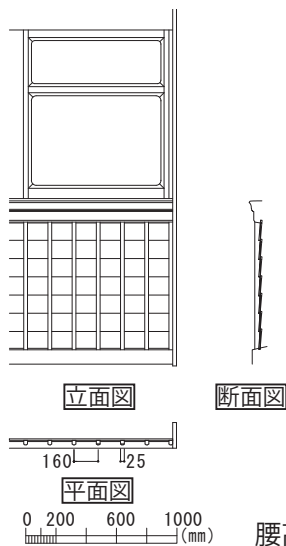
親子格子

腰高窓

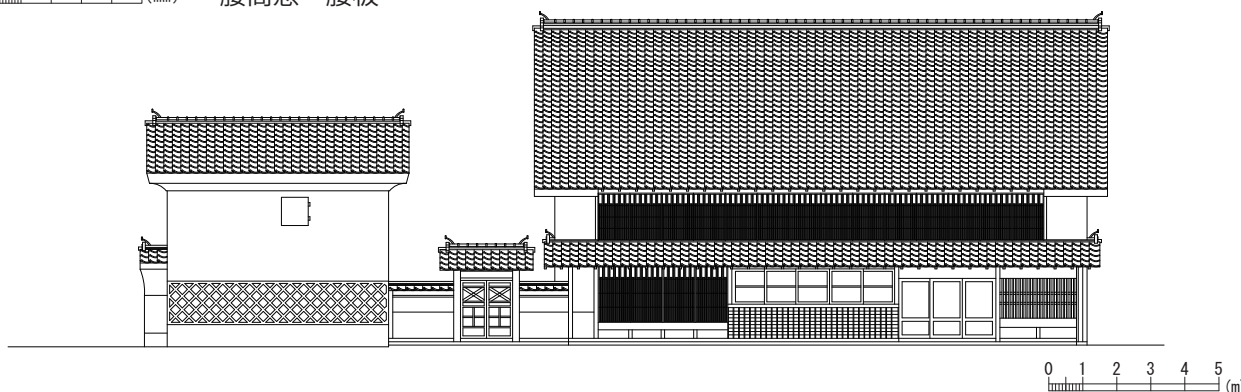
木製のサッシで横桟により上部がやや狭い 2 段にわかれたシンプルな意匠です。ガラスに接している枠は入隅部を曲線で加工してある丁寧な作りです。

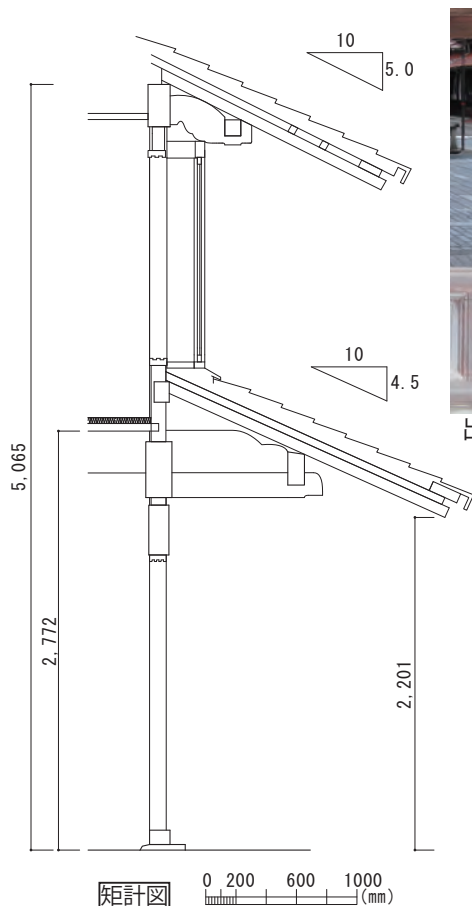
腰板

窓の下部の腰板は押縁を縦に通した簾子下見板張りです。押縁の間隔は 160mm に下見板は 125mm 毎に張られる密な意匠になっています。



腰高窓・腰板





下屋庇

長い軒の出を支えるために、建物から鉛直に出梁をのばし、軒の長手方向に出桁をかけています。軒先は敷地から出て通りにかかるようになっており、雨水が溝に落ちるようにつくられています（溝は現在は暗渠）。



本門

主屋と土蔵に間に位置する本門の形式は腕木門とよばれるもので、裏に控柱を建てています。2枚の門扉

をはめ、門扉の上部は斜めの細い棧を4本交差させる意匠がみられ、棟の両端には鳥伏間（とりぶすま）をつけています。これらは殿町の沙羅の木の表門（P.12）と共通します。

ここでは棟を2段に丸瓦を重ねて青海波として飾っています。一方、両脇につく土塀にはナマコ壁は付けられていません。



出入口戸

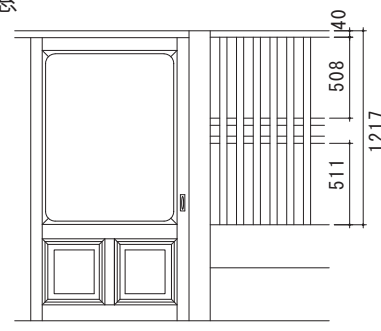
出入口戸・格子窓

出入口戸は腰高窓と統一の意匠で、足もとは木板をはめています。

格子窓は45mm 中の格子子を105mm 間隔ではめる比較的太い平格子です。このような平格子を出入口脇にはめるのは古橋酒造場（P.20）と共通します。



格子窓



立面図



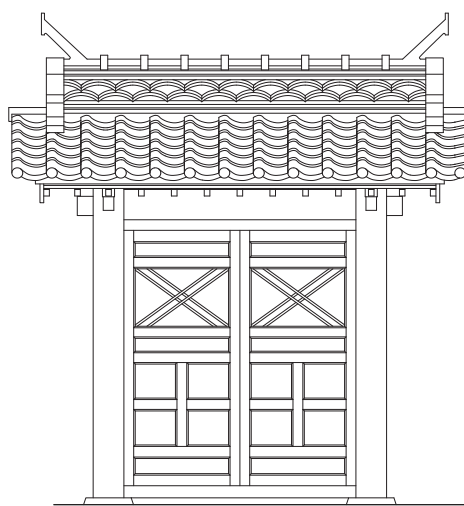
格子窓平面図

出入口戸・格子窓

0 200 600 1000 (mm)



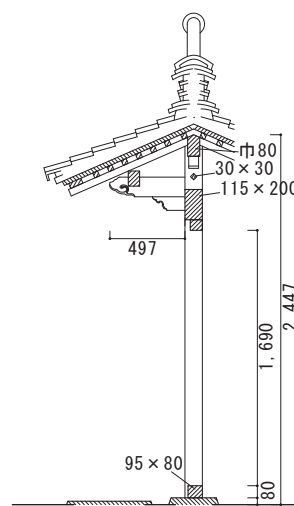
下屋庇を支える出梁と出桁



立面図

本門

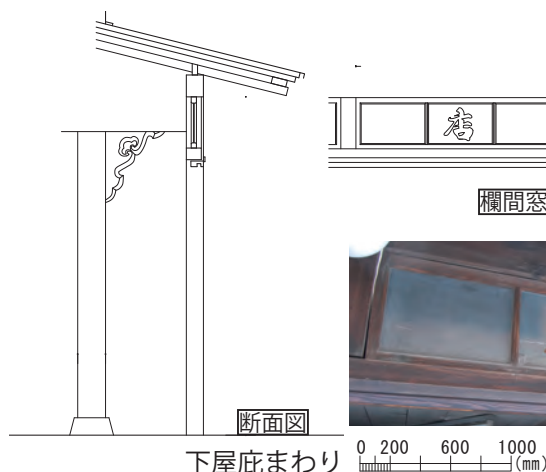
0 200 600 1000 (mm)



断面図

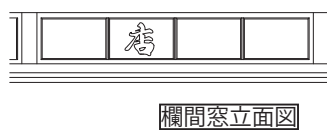
03 フジヤ車庫（旧吉尾履物店：明治中後期、本町通り） 主屋

フジヤ車庫は本町通りと横町通りの交差点の北東角に位置します。二階高がやや低い中二階建てで、二階には木製の窓をはめます。壁面は土壁で柱が見える真壁で塗られていますが、うだつをつけ、その外側は木部が見えないよう塗籠ています。一階の木製の雨戸や銅板葺の下屋庇が伝統的な意匠を示します。



欄間窓

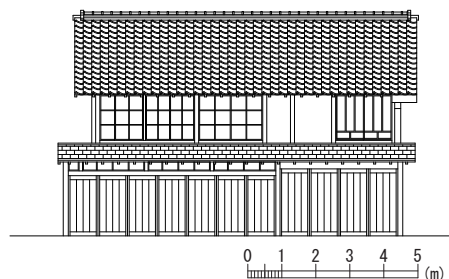
欄間窓には透かしで文字が入っており、店舗であつたころの様子をしのばせます。



欄間窓立面図



欄間窓



04 俵種苗店（明治中期、本町通り） 主屋

俵種苗店は本町通り沿いに東を向いて建っています。二階高がやや低い中二階建てで、二階は格子窓の両脇に戸袋がつけられています。一階は店舗として透明なガラス戸を全面にはめて開放的にしています。また、この家屋の一番の特徴は「シトミド」と呼ばれる、上げ下げして戸じまりをおこなう伝統的な木製の雨戸を持つところです。

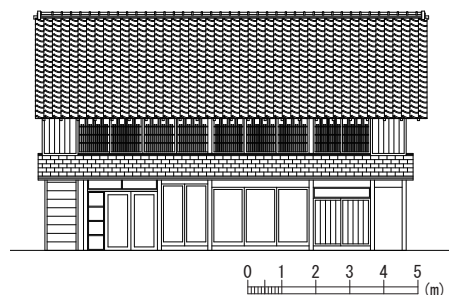


シトミド

通りから向かって出入口の左手に巾 1.5m ほどが 2 列、右手に巾 1m 満たないものが 1 列入っています。上下三段にわかれており、上部の差鴨居に取り付けられた枠に摺り上げて納めるという、古式を伝えるつくりです。

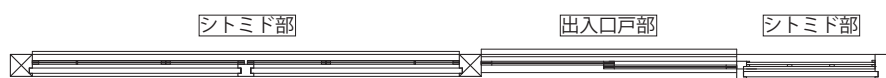
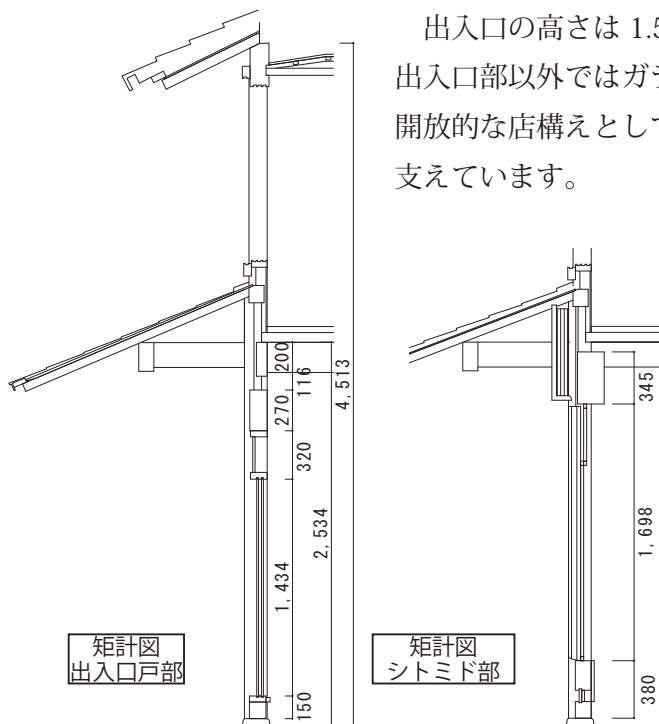


シトミド



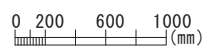
正面まわり

出入口の高さは1.5m程と低く、くぐって入るようなつくりです。出入口部以外ではガラス窓が380mmの高さから1.7mほどはめられ、開放的な店構えとしています。下屋庇の軒の出が長く、出梁と出桁で支えています。



平面図

正面まわり

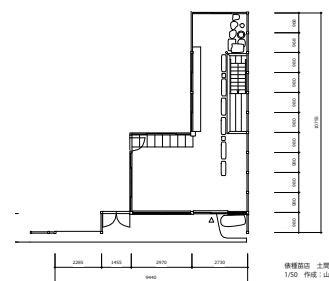


土間 (店舗) まわり

当家屋は店舗として内部も開放しているので、土間や土間に接する窓、戸まで修理・修景の対象になります。土間は三和土 (たたき) で天井は二階の床組みがそのまま現しになっています。

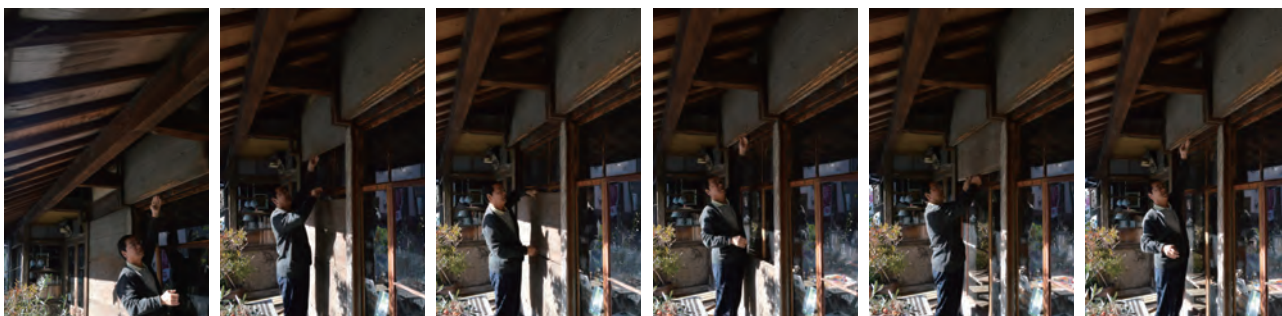


土間 (店舗) まわり



平面図

土間まわり 0 1 2 3 4 5 (m)



シトミドを上げる様子

05 古橋酒造場店舗兼住宅（大正 10 年、本町通り） 主屋

古橋酒造場は大正 10 年築で、本町通りと横町通りの交差点南東角に位置します。本町通りの伝統的家屋のなかでも高い軒高で 6m を超えます。

正面（本町通り側）外観の 1 階は横町通り側（向かって左）から・簾子下見板張りの腰板に上部は平格子・入口・平格子・親子格子の出格子と並び、1・2 階の間には通し庇を伸ばしています。

2 階は全面開口とし、出格子の親子格子をはめます。戸袋が両側につき、戸袋とその両端妻側の外壁、軒裏は垂木型が見えないほどに漆喰で塗り込められ、前面中央部は木部の見える真壁の軒裏部材現しになっています。

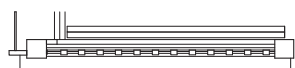


格子窓（左側）

出入口の通りから向かって左脇に位置する平格子の格子窓は、財間家住宅（P.16）の出入口脇に位置する格子と同様に比較的太く、42mm 巾の格子子を 122mm 間隔ではめています。

腰板

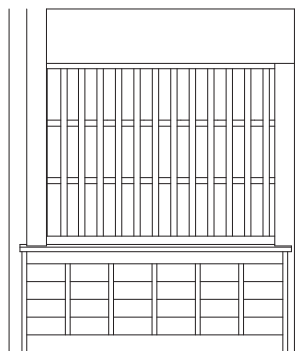
窓の下部の腰板は押縁を縦に通した簾子下見板張りです。押縁の間隔は 290mm ほどで下見板は約 120mm 毎に張られ、平格子の下部という面積の少ない部分に設けられています。



格子平面図



腰板（簾子下見板張り）平面図



立面図



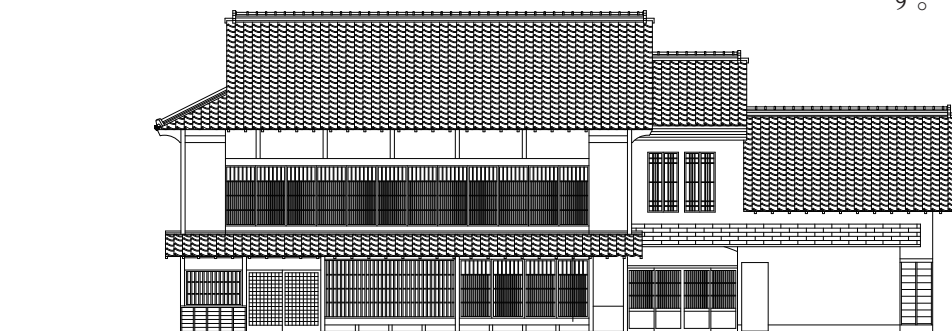
断面図

格子窓・腰板

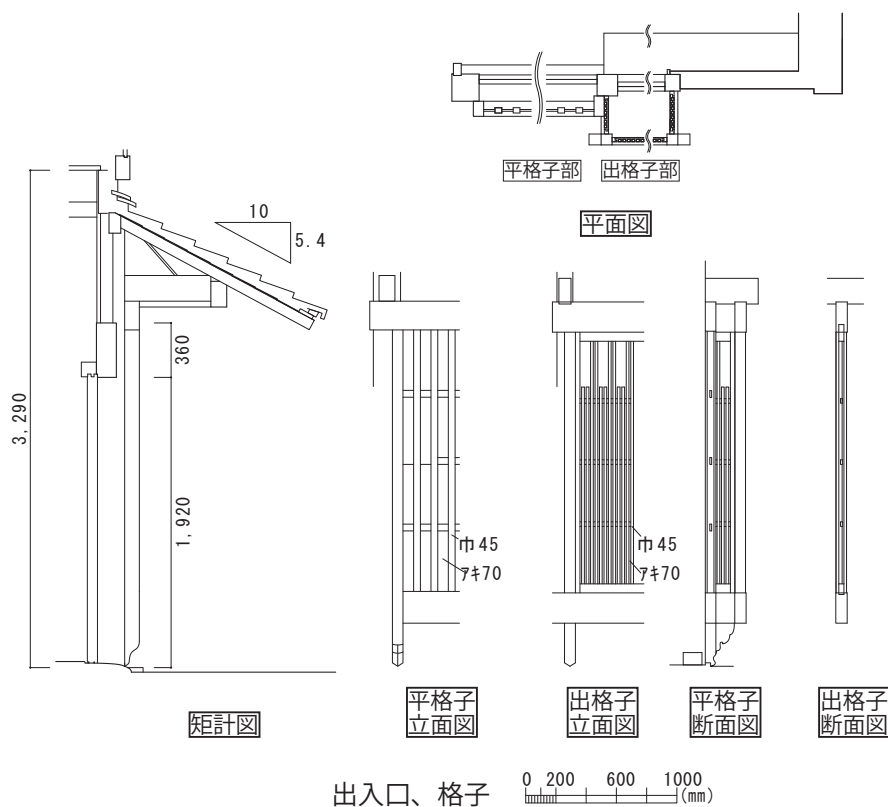
0 200 600 1000 (mm)



格子窓・腰板



0 1 2 3 4 5 (m)



出入口右側まわり
通りから向かって出入口より右側は平格子が3mあまり、次に出格子が4m弱続く。

下屋の庇を長く出すために出梁、出桁をもうけて支えています。

平格子（右側）

左側の平格子よりも背の高い格子となっていますが、断面の寸法は近く、45mmの格子子を115mmの間隔ではめています。

出格子

格子子が18mm、隙間が11mm（29mm間隔）という密な格子で親子格子になっています。



平格子



平格子（左）・出格子（右、親子格子）



出格子（親子格子）



平格子（右側）の足元
簡易な「持ち送り」をつけています。通気口の意匠もがなされています。



平格子と出格子の間の足元
出格子側の「持ち送り」は曲線を多用し、手の込んだ加工（絵様）がなされています。



出格子の足もと
平格子側とは違った通気口の意匠です。持ち送りが間に1本入っています。

殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

江戸期
明治初期

明治中期
後期

大正期
昭和初期

専用住宅

店舗兼住宅

蔵・倉庫

本町通り側面・背面の特徴：例



本町通りに正面を構える家屋の側面・背面には家屋の正面とは異なる特徴があります。

多くの家屋は土蔵のように漆喰や土壁などが軒裏まで塗り込められて開口部が少なく、壁は荒壁のもの、漆喰、板張りなどで保護しているものとあります。



金属製の小窓

土蔵や主屋などの側面においても、開口部は小さく、銅板やその他金属板の扉をつけた窓がみられます。

軒裏までの塗籠

漆喰壁などで軒裏や、ケラバの裏まで木部が現れないように塗り込めています。

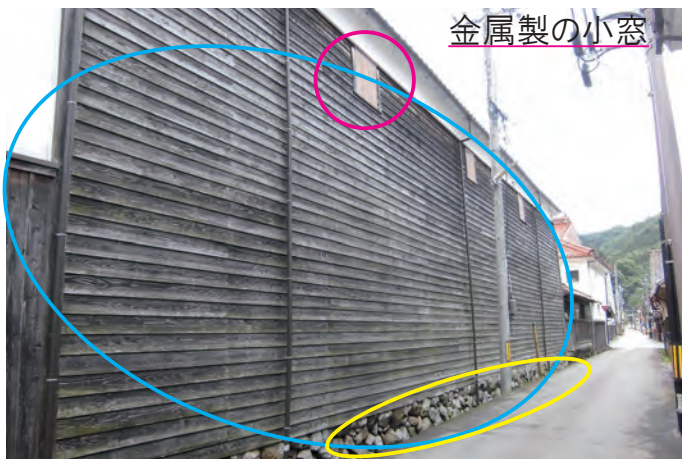


窓の鉄格子に小庇

小さい窓に鉄格子をはめ、その窓に小庇をつける特徴があります。

縦板張り

焼き色をつけた板を縦に張っています。



金属製の小窓

横板張り

この家屋では板を横に張っています。

足もとの石段

側溝から直接立ち上がる壁の足もとに石段をもうけています。

本町通り側面・背面の家屋：例

江戸 ～ 明治初期	店舗兼住宅	蔵・倉庫	
			
			
明治中 ～ 後期		「財間家」⇒ P.24	「財間家」⇒ P.24
			
		「フジヤ」⇒ P.26	
大正 ～ 昭和期		「古橋酒造」⇒ P.27	「古橋酒造」⇒ P.28
			
			「古橋酒造」⇒ P.28
			

殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

江戸期
～
明治初期

明治中期
～
後期

大正期
～
昭和初期

専用住宅

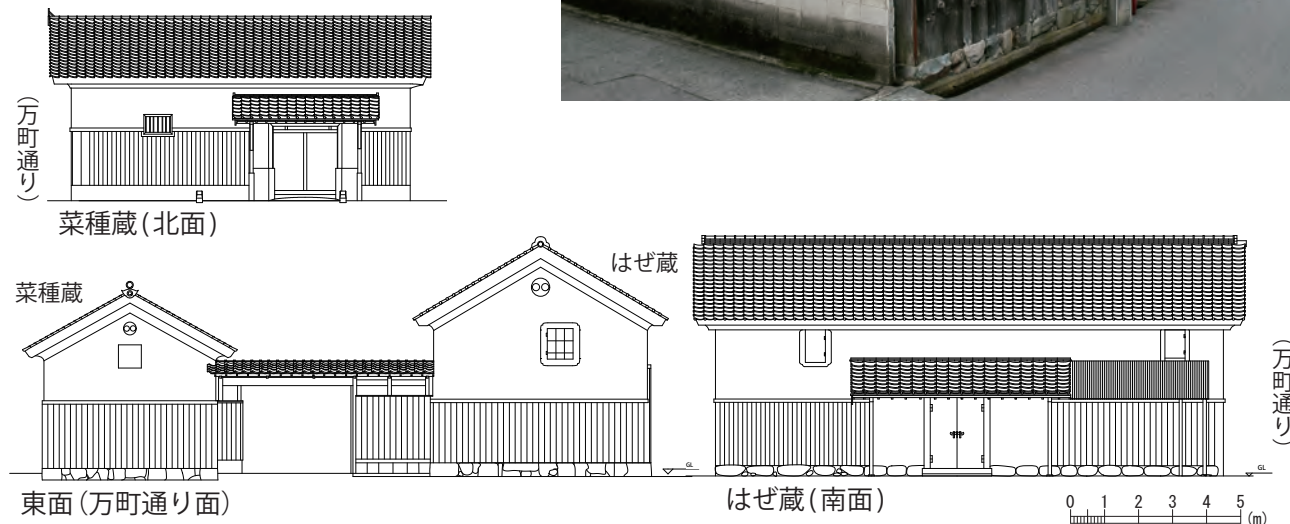
店舗兼住宅

蔵・倉庫

06 椿家店舗兼住宅（分銅屋：嘉永6年(1853)直後、万町通り） 菜種蔵、はぜ蔵

椿家店舗兼住宅は大火（嘉永6年）直後に再建されています。主屋は本町通りに面して、敷地は裏側の万町通りに達し、菜種蔵、はぜ蔵が建っています。

金属扉の小窓、足もとから石段、豎板張り、漆喰の塗り込め、と「本町通り側面・背面」の典型的特徴を持つ家屋です。

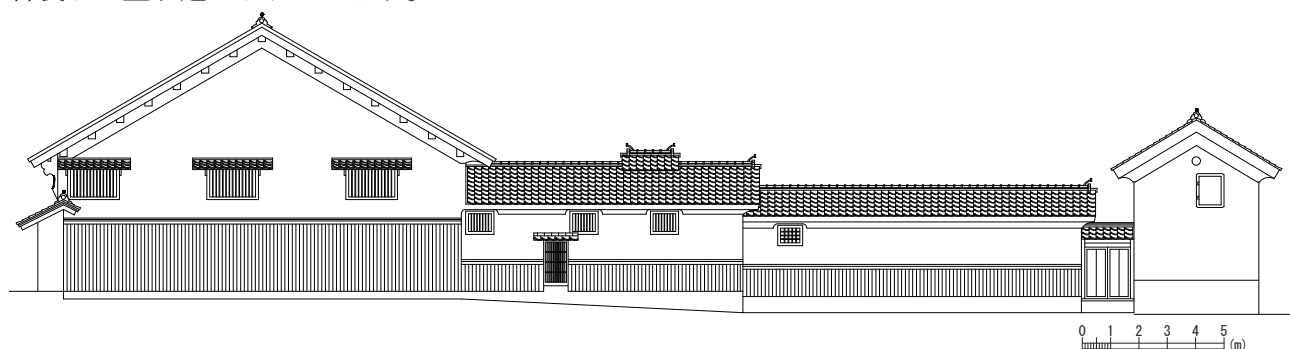


07 財間家住宅（明治32年、代官町通り） 主屋～上の蔵

財間家住宅は明治32年上棟（棟札より）であり、本町通りと代官町通りの交差点北東角に位置します。

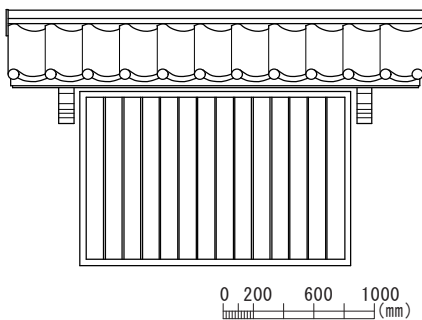
代官丁通り側は本町通り側から主屋とその角屋、間に1棟はさみ、上の蔵ととなっています。

主屋と上の蔵は棟を（代官町）通りに直行する向きとし、間の棟は通りに平行にしています。足もと石段を据え、上の蔵以外は腰を豎板張りとし、全ての棟で軒裏まで塗り込められています。





主屋側面、小窓・小庇



主屋小窓・小庇立面図

主屋側面、小窓・小庇

上部壁は母屋の形がみえるものの、木部が表面に現れないように塗り込めています。窓は小さく鉄格子をはめ、窓毎に小庇を設けています。小庇は瓦葺とし小さいながらも持ち送りをつけてしつらえられています。



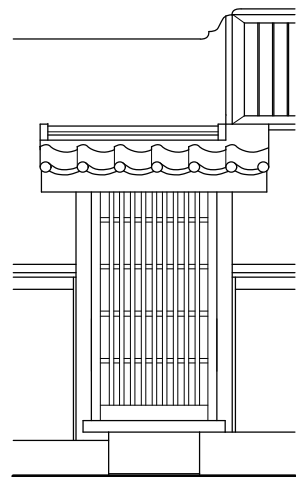
主屋角屋



上の蔵

上の蔵

財間家住宅の敷地の最も背面に位置します。腰に板壁を持たず、窓のつくりは密閉性が高いものになっています。壁面上部に1カ所のみ小窓を設ける様子は、土蔵の妻面の構成として、津和野でよく確認できます。



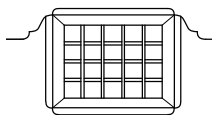
勝手口立面図



主屋角屋、井桁格子



主屋角屋、縦格子

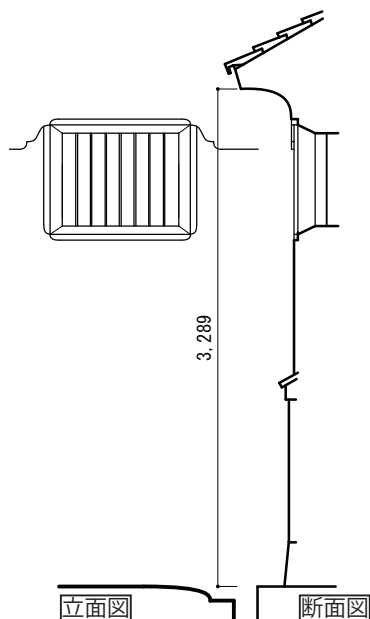


井桁格子立面図

主屋角屋、格子窓

主屋の裏に棟の向きを違えてつく角屋は、背が低く煙り出しを設けています。

勝手口には小庇をつけますが、小窓にはつきません。小窓にははめる鉄格子は縦格子と井桁格子の2種類あります。

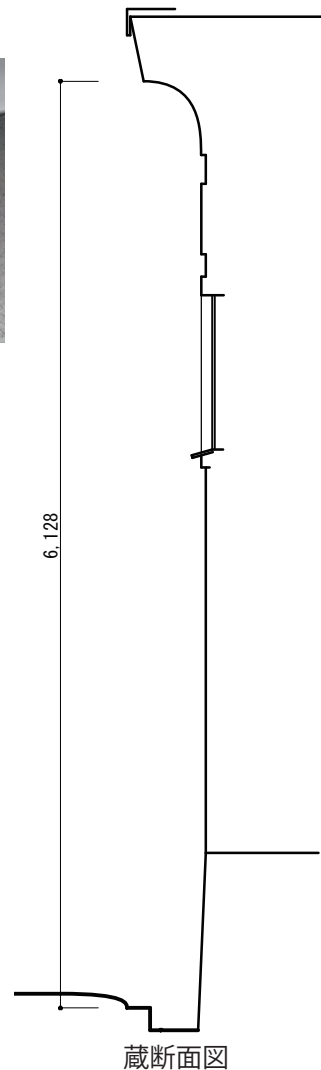


立面図
縦格子窓まわり

6,128

3,289

断面図



蔵断面図

殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

江戸期
明治初期

明治中期
後期

大正期
昭和初期

専用住宅

店舗兼住宅

蔵・倉庫

08 フジヤ車庫（旧吉尾履物店：明治中後期、本町通り） 主屋、主屋角屋

フジヤ車庫は本町通りと横町通りの交差点の北東角に位置します。側面は横町通りに面しています。

主屋の側面と主屋と棟の向きが直行する主屋の角屋が並びます。ともに足もとから縦板張りを外壁の中ほどまで立ち上げ、軒裏までは漆喰など仕上げていない土色のままの壁を塗り込めています。

横長の背の低い窓が取り付け高さを変えて並び、格子は木製、鉄製の伝統的な形で格子をはめています。

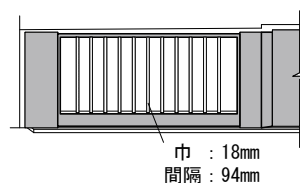


主屋角屋、格子窓

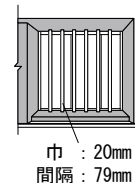
角屋の窓にはめる格子は木格子と鉄格子とあり、鉄格子は①が間隔 94mm、②が 79mm、木格子は 94mm としており、比較的に粗な格子になっているところが特徴です。



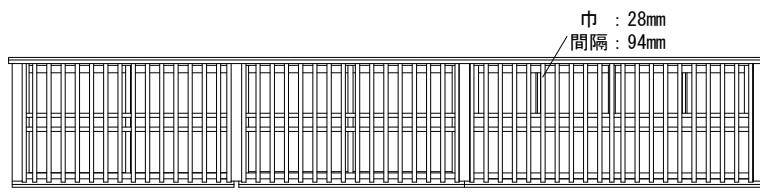
主屋角屋



鉄格子①



鉄格子②

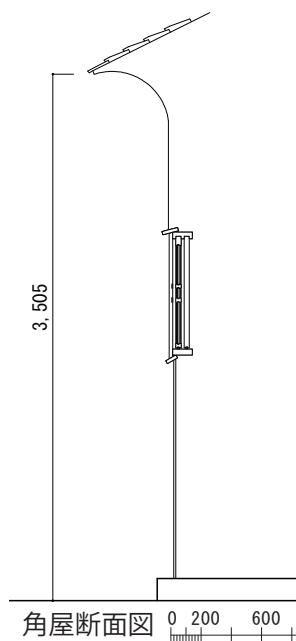


木格子

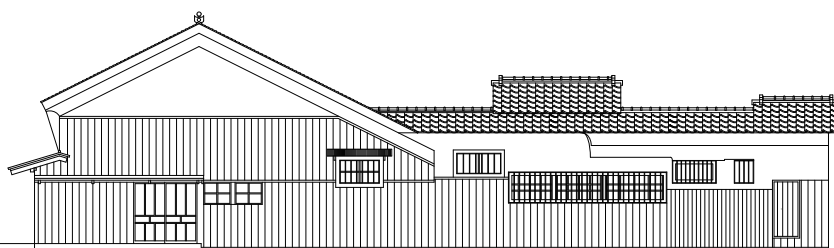
格子窓立面図 0 200 600 1000 (mm)



木格子窓



角屋断面図 0 200 600 1000 (mm)



0 1 2 3 4 5 (m)

09 古橋酒造場（大正 10 年、万町通り） 長屋蔵

本町通りに主屋が面する古橋酒造場の敷地の背面、万町通りに面します。

内部は 3 件に分かれ、真ん中の住戸にたいして左右の住戸がそれぞれ対称になっています。

堅牢な土蔵造りに住宅のための開口部を設けた正面の立面が特徴的です。

老朽化が進んでいますが、足もとに石段を据え、縦板張りの壁に軒裏は漆喰壁で塗り込める意匠は伝統的なものであり、本町通りに主屋を面する背後の土蔵建築として代表的な一例です。



窓・戸

窓や戸は木製の部材で構成され、戸は足もとは板をはめ、窓は縦棧と横棧で分割されるシンプルな意匠で統一されています。

庇

柱から腕木を伸ばし、方杖をかけ桁を支える形として、正面から向かって左側 2 住戸の窓と戸に一続きで、右側の住戸の窓と戸に一続きで架けています。



戸②



戸③



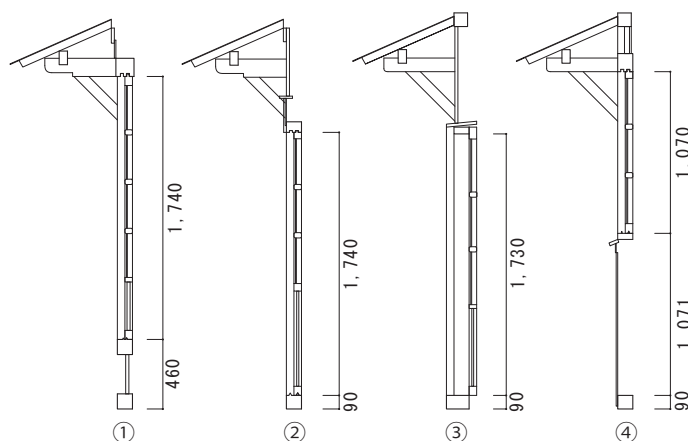
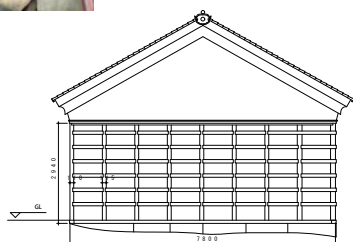
窓④



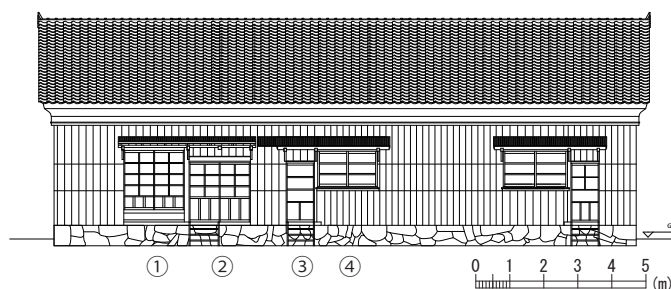
窓①



庇



窓・戸まわり断面図



殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

江戸期
明治初期

明治中期
後期

大正期
昭和初期

専用住宅

店舗兼住宅

蔵・倉庫

10 古橋酒造場（大正 10 年、横町通り）

主屋、主屋角屋、土蔵

古橋酒造場は大正 10 年築で、本町通りと横町通りの交差点南東角に位置します。

敷地は裏の万町通りまで続き、横町通り沿いに、軒高の高い主屋の側面～土蔵が一面に並ぶ様子は本町に主屋をもつ家屋の側面として代表的な特徴です。

主屋は入母屋屋根の破風側が面し、足もとは石段、腰に豎板張りとし、上部は漆喰で軒裏まで塗り込めます。

主屋の裏、角屋の部分から背面は棟を通りと平行としています。角屋は平屋建で腰を豎板張り上部を横板張りとしており、屋根上に煙出しの煙突がみられます。

後ろに続く土蔵は 2 棟で 50m を超え、軒高が 6.5m ほどと高く、開口部の少ない大面積の壁面拡がります。この様子は重要な町並み風致のひとつです。



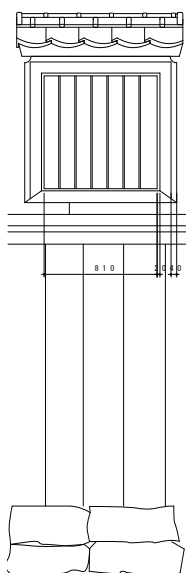
主屋・主屋角屋



主屋小窓・小庇

主屋側面小窓・小庇

小さく鉄格子をはめ、下部の窓は小庇を設けています。小庇は瓦葺とし軒裏は塗り込めています。



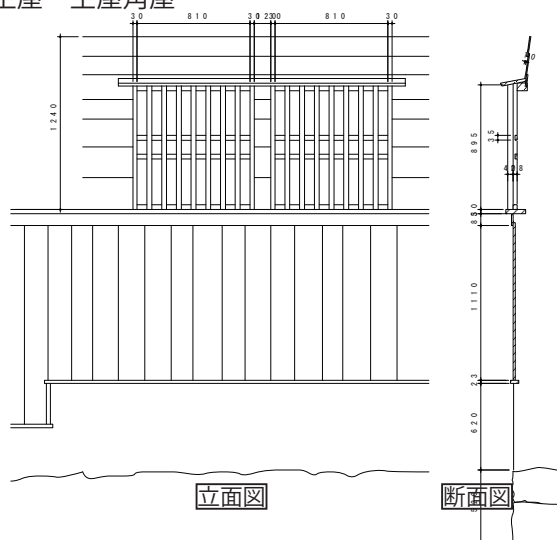
小窓・小庇立面図

主屋角屋格子窓

間隔が 100mm ほどの粗な木格子をはめ、貫は中央寄りに 2 本は入ります。



主屋角屋格子窓

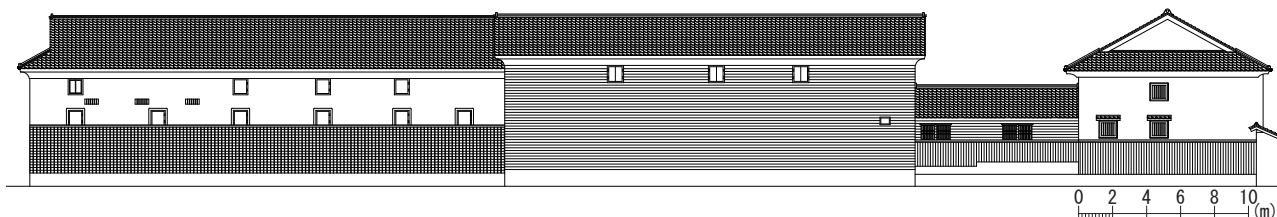


酒造店舗裏 側面詳細図 1 / 2 0

酒造店舗裏 側面断面詳細図

格子窓周辺

0 200 600 1000 (mm)



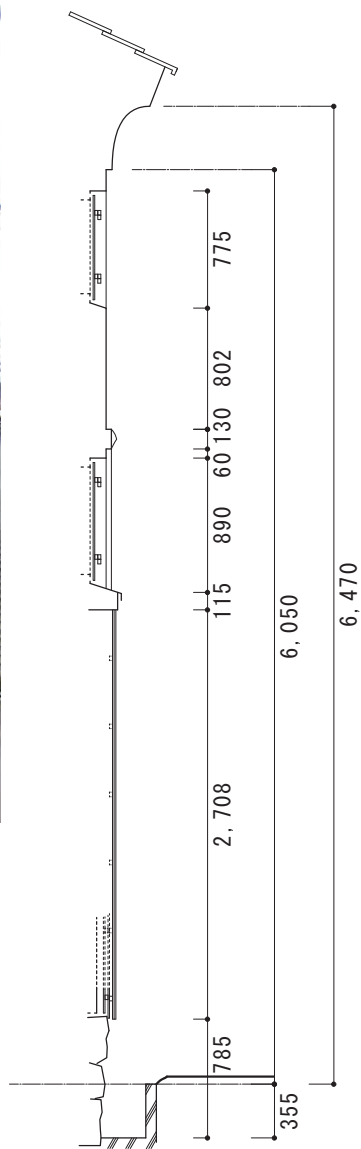
0 2 4 6 8 10 (m)



土蔵（表側）

土蔵

2棟並ぶ土蔵は、表側は横板張りを軒裏下までの高い位置まで張り、背面側は下部半分までの縦板張りで上部は漆喰壁としています。壁面に所々空けられる小窓は、小庇などを持たない簡易な形状で、金属板の扉をはめています。

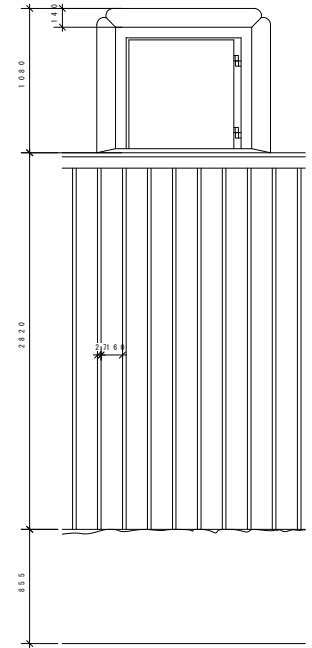


断面図

土蔵（背面側）



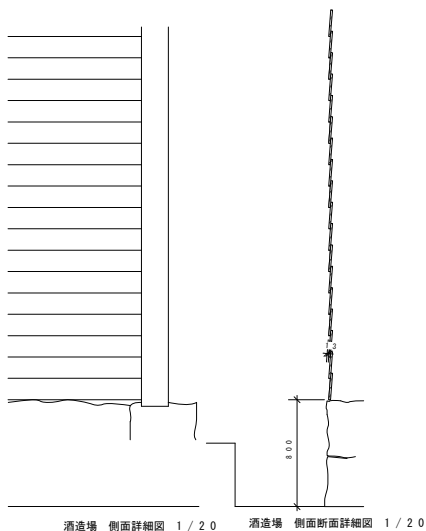
土蔵（表側）



酒造場 側面詳細図 1 / 1

立面図

0 200 600 1000 (mm)



酒造場 側面詳細図 1 / 20

酒造場 側面断面詳細図 1 / 20

立面図

土蔵（表側）

断面図



土蔵（背面側）

殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

江戸期
明治初期

明治中期
後期

大正期
昭和初期

専用住宅

店舗兼住宅

蔵・倉庫

新丁通りの特徴：例



新丁通りと交差する付近の東西の通りの一体とした特徴を見出しています。

本町通りに比べ専用住宅が目立ちますが、商店も建つまちの様子です。

南端側（旧武家地）では土塀がまわり、北側では道幅の狭い通りの敷地いっぱいに2階建の町家が並ぶまちなみが伝統的特徴です。



掃き出し窓の二階ガラス窓

二階のガラス窓が背の高い掃き出し窓となっている家屋がみられます。

格子窓

1階窓に親子格子をはめる例も少ないですが存在します。



高欄

二階の窓から張り出す形で高欄を設けます。現状ついていない家屋でもかつてあった跡が残るものがあり、伝統的な形です。

掃き出し窓

1階の正面が開放的になるように掃き出し窓で、全面を空けている家屋がよく確認できます。



土塀と門

新丁通りの南側では旧武家地であり、現在も土塀で敷地が囲まれるなど当時の様子がしのべられます。

新丁通りの家屋：例

江戸
〜
明治初期

専用住宅

(庫裏)



殿町通り

本町通り

本町通り
側面・背面

新丁通り

祇園丁通り

万町通り

明治中
〜
後期

(旧旅館)



店舗兼住宅

「能美染物店」⇒ P.32



蔵・倉庫



江戸期
〜
明治初期

明治中期
〜
後期

大正期
〜
昭和初期

大正
〜
昭和期

「吉松家」⇒ P.33



専用住宅

店舗兼住宅

蔵・倉庫